

質問書に寄せられたご質問・ご意見

ご質問への回答と、ご意見に関連した補足情報等を下記の通りまとめました

	質問・意見	事務局回答
1	新しい推進計画には、今回のような ウイルスの発生や大災害などに見舞われたとき、安心への準備として、また、人とのつながりへの方法として、「生涯学習は如何に対応して行くべきか」「いかに支援し、いかに学んでおくか」といった内容を、コラムではなく、一つの項目として入れられないでしょうか？（生涯学習には、必要な時、必要なことを学ぶという概念が含まれています。）	コロナ禍において、生涯学習は大変大事なことです。計画冒頭の「はじめに」の中で、当内容を含んだ内容の記載を考えています。
2	教育格差の問題を生涯学習で如何に是正して行くか。その方法を考えて、やはり一つの項目を設けることはできないでしょうか？（教育による格差は、過去もそして現在もそうですが、今後、とりわけコロナ後に台頭してくる問題かと思われます。）	教育格差是正の取組については、学校教育に重点を置いた教育委員会の計画である「教育振興計画」において触れた上で、連携していく考えを進めています。 ⇒補足情報①参照
3	今までの会議にもでてきましたが、Society5.0について、生涯学習として考えておく必要はありませんか？（奇しくも、コロナの出現によって、仮想社会等、想像したよりも早く、第5社会は訪れてしまいました）	取組方針④「情報提供による学びの支援」の記載への追加を検討します。
4	P6コラム①のとおり、コロナによる新しい生活様式をはじめ、オンラインの活用は、計画推進に重要と思います。 講座の在り方も、オンライン参加、一定会場に集まって遠方の講師がオンラインなど、様々考えられます。 このあたりのことを取組方針のどこかに記載する予定はありますでしょうか。	取組方針④「情報提供による学びの支援」の記載への追加を検討します。
5	令和2年4月からスタートした「かしわフレイル予防ポイント」は、生涯学習をはじめのきっかけにもつながるものと考えますが、計画に記載する予定はありますでしょうか。	事業の担当課と調整予定です。
6	第4次柏市生涯学習推進計画（素案）にはイメージが図で示され、具体的な取り組み（取り組み方針の施策体系）が記載されていて分かりやすく良いと思いました。	ご意見ありがとうございます。
7	素案P25において、「H行政機関の連携」が著されたことは良かったと思います。ぜひ、生涯学習課がリーダーシップをとって連携に取り組んでもらいたいと思いました。しかし、具体的な取り組みや事業などが示されていないのは残念です。具体的な事業や取り組みを著すことはできないでしょうか。 また、一歩進んで「取組方針②」で示された民間との連携について、Hの部分でも示すことはできないでしょうか。	行政機関の連携の具体的な取組については、P18の部分に挙げました。不十分な面もありますがこれからの取組として位置付けました。 取組方針②「もっと知りたい、つながりたい」に記載の「大学や民間事業者との連携」はP23のDに位置付けました。

8	<p>素案P22、23、25等において、中央公民館での具体的な事業を示していますが、生涯学習として、同じ建物である教育福祉会館（福祉関係事業）との積極的な連携事業についての具体的なアプローチがないように思います。前述の連携との関連で具体的な事業の動きはないのでしょうか。</p>	<p>施策体系表の部分は実効性を担保するため、主担当課がはっきりしている事業を中心に掲載しています。行政機関の連携の具体的な取組については、P18の部分に挙げました。 ⇒補足情報②参照</p> <p>また教育福祉会館のこれからの取組についてはP26コラムに取り上げ、運営協議会等を紹介する予定です。</p>
9	<p>生涯学習課青少年センターを冠した積極的な生涯学習の計画等がないのは残念に思います。P23-Cの青少年育成関係事業に含まれているのでしょうか？乳幼児及び子育て世代、青少年の生涯学習の積極的な取組みについて、計画があるのならば、それを推進計画上で示すことはできないでしょうか。または、他課が取り組む事業において青少年センターを積極的に活用できるように取り組むことはできないでしょうか（これは本計画内のことではないかもしれませんがね。青少年センターは研修施設もあり、屋内でも野外でも活動もでき、幅広い年代で幅広い活動が可能な、市内でも貴重な施設だと思っています。もっと充実し、有意義に活用されたらいいなと常々感じております。）</p>	<p>ご質問の通り、P23のC「青少年育成関係事業」は青少年センターに関する事業です。</p> <p>参考資料（P30）に関連分野の行政計画等として、「子ども・子育て支援事業計画」を掲載しました。</p> <p>青少年センターの活用については、稼働率向上に向けた検討を進めて行く予定です。</p>
10	<p>9ページの「生涯学習を取り巻く柏市の現状」では、年齢別データは載せないのでしょうか。どの年齢層が障害学習に意欲があるかがわかるデータだと思いますが。</p>	<p>P9には記載していませんが、P31以降にアンケートの詳細を載せました。 ⇒補足情報③参照</p>

## 補足情報

### ① 柏市教育振興計画について（参考）

※柏市教育振興計画策定有識者懇談会資料より抜粋（現在策定中のため、変更の可能性があります）

#### 次期計画の方向性

##### ・学ぶ意欲を育成する

子どもたちが生涯にわたり学び続ける基礎を培うため、教職員の指導力を高めることで、学校図書館、ICT、人的支援を効果的に活用した、子どもたちの実態に合った分かる授業を推進し、子どもたちの学ぶ意欲を育成する。

##### ・互いの立場を尊重しあい、安心して学びあえる環境をつくる

いじめ・不登校対策の充実、特別支援教育の充実を図ることで、子どもたちが安心して学習できる環境に向けた取組を推進する。また、互いに認め合い、多様性を尊重する意識の醸成に向けた取組を推進する。

##### ・教職員の力量・学校の組織力を高める

独自性のある研修を実施することで、教職員が個々の力量を高めつつ、相互に学びあい、高め合える体制づくりを推進するとともに、子どもに向き合う時間を確保するため、教職員の負担軽減に向けた取組を推進する。

##### ・地域・家庭とともにある学校をつくる

全校が、コミュニティ・スクールとなることで、地域とともにある学校づくりを進め、持続可能な取組を継続していくことで、地域の活性化につなげていく。また、家庭教育の支援の充実・放課後の子ども居場所づくりに向けた取組を推進する。

## ② 施策体系表（P22～）掲載事業について

**生涯学習まちづくり出前講座** 市民の依頼に応じて関係部署の市職員が講師となり、地域に出向き、市政に対する興味・関心に応える。

**地域いきいきセンター** 地域づくり・子育て・障害者・高齢者支援等の充実を図るため、近隣センターを拠点として、身近な福祉の相談窓口として設置する。

**みんなの子育て広場** 学校・家庭・地域が協力して、講習会や井戸端会議的なグループワークなどを実施し、情報収集や不安や悩みの解消、仲間づくりの推進を行う。

**市民交流センター** 地域を構成するさまざまな主体の自主的な活動や主体同士がつながるための拠点として、地域情報等に関する情報の収集・発信や、市民活動に関する相談窓口の設置を行う。パレット柏の運営

**KIAKI（カシワワカモノプロジェクト）** 自ら考え、行動する若者に向けて交流の機会や活動の場所を提供。

**こずっち会議** ふるさと協議会と子育て世代が集まり、子供が住みよい地域にするための会議

**当事者による自主サークル活動** 障害の当事者による自主サークルの開催（体操や囲碁、ポッチャや絵画等）

**交流型講演会** 講演会の後に、課題についてワークショップ形式で話し合ってもらう。

**地区担当職員による地域支援** 地区担当職員が積極的に地域に足を運び、住民と協働して課題解決に向けた取組を行い、活動や団体の立ち上げのサポートを行う。

## ③ アンケートについて

令和元年11月、18歳以上の柏市民4,000名を対象に「教育・生涯学習・芸術文化に関するアンケート」を実施。その中から生涯学習に関するものを抜粋して、クロス集計・分析を行った。

**P31** 「この1年間に、生涯学習をしたことはありますか」に対して、全体では「ある」よりも「ない」の回答割合が多い結果となった。年代別で見ると、「ある」の回答割合が最も高かったのは10歳代で、「ない」の割合を上回った。「ある」の回答割合が最も少なかったのは30歳代だったが、「したかったができなかった」割合が多かったことから、この年代できっかけづくりができると、活動人口の増加につながるものと考えられる。

**P32** 「この1年間に、地域の活動に参加しましたか」に対しては、全体で見ると、「参加した」よりも「参加していない」の回答割合が多かった。「参加した」割合が特に少なかったのは、10歳代と20歳代だった。なお、30歳代以上においても、「参加した」割合は概ね3割程度だった。

**P33** 「今後、学習する際にどのような方法で情報を収集しようと思いますか」に対しては、全体で見ると「インターネット」の回答割合が圧倒的に多かった。ただし、60歳代と70歳以上においては「広報かしわ」の割合の方が多かった。多世代に広く周知するためには、あらゆる方法による情報提供が必要だということがわかる。

**P34** 「今後、学習する際にどのような場所や施設を利用しようと思いますか」に対して、全体では「近隣センター」、「図書館」、「自宅・知人宅」の順に回答割合が多かった。「近隣センター」の割合は年齢が上がるにつれて多くなり、反対に「図書館」の割合は年齢が上がるほど少なくなるような傾向がみられた。

**P35** 「この1年間に、地域の活動に参加したきっかけは何ですか」に対しては、全体で見ると、「自治会の回覧」の回答割合が圧倒的に多かった。ただし、10歳代と20歳代においては「知人からの紹介」の割合が最も多かった。P33「生涯学習の情報収集の方法」では「インターネット」や「広報かしわ」の割合が多かったが、ここではそれらの割合が少ない。地域の活動への参加に結び付けるために、「ホームページ」や「SNS」を活用することが有効だと思われる。